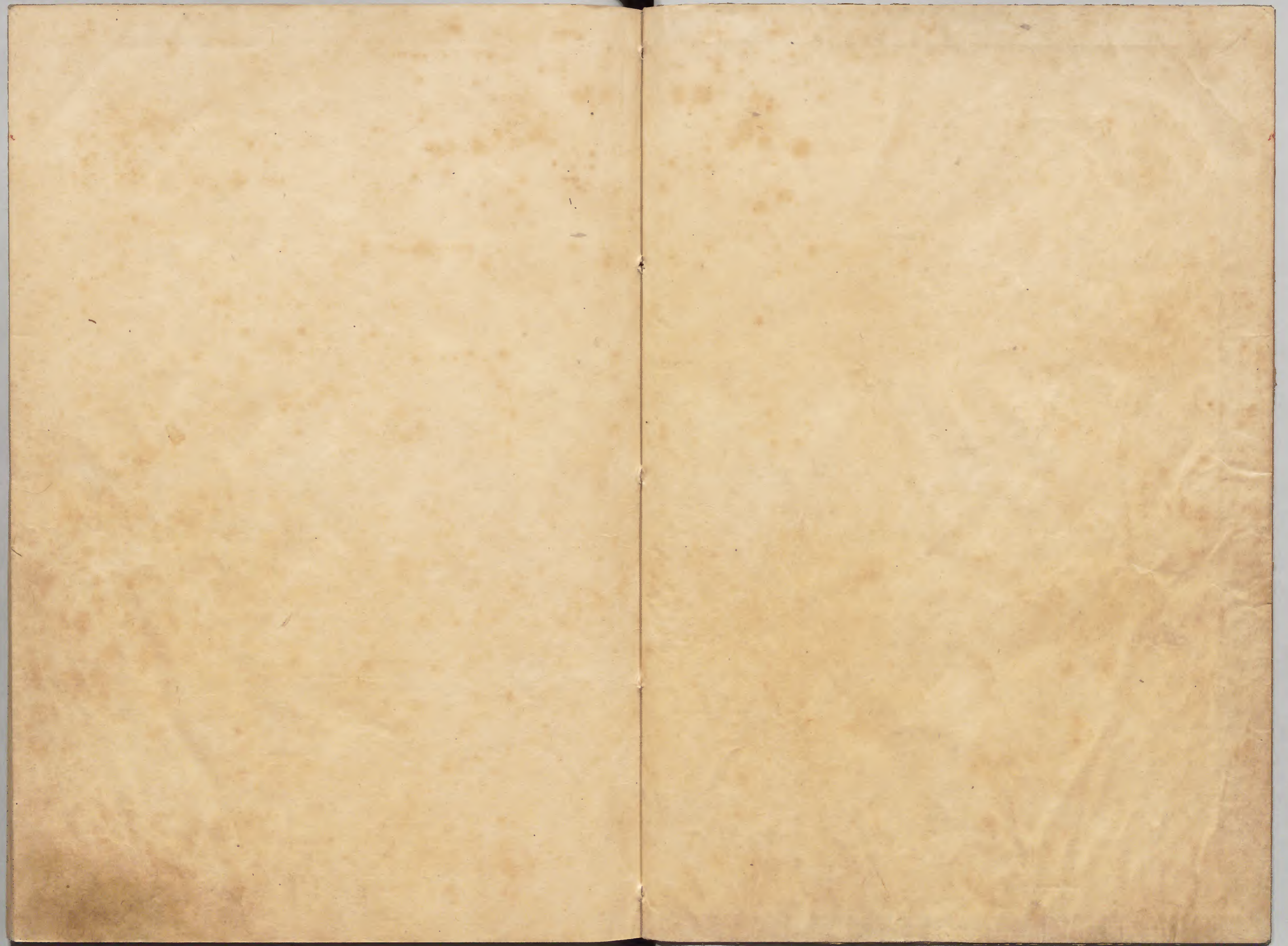


寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内
義光流之内武田流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (40)
函號	特 76 1





五鴻

保田

岡田

芳根

平願

小佐子

下芳根

安友

東條

寛永諸家系圖傳

信和源氏

康四

義光流

五鴻

淺草文庫

家傳より武田太郎信義が男
 岳傳有義が末流より代々肥前
 巨瀬より千敷百町と領とあり
 たり武田義政が次男盛が代々武田と
 りにあり字之肥前と号し

今粟らりよ枝家の系名信和より
有義より有り有義より五孫孫高
豊次より有りや十五代及び有り有
義の頼朝頼家の代より有り有り
既原京特じりんの時有義と入将
とらんとしてけいごも事なりと系
時減之して有義ありを没と志り
とばそれ子孫の志と知海あり
りまればも他家の系名とこれを

りんぐり信和の時代より信和
系の教名れゆりこり二十代と有り
十六七代は信和二十代よりあり
いんや二十代と有り枝系名れ中
は一字と有り号と有りあり又二字
とりらゆりあり一字二字あり
少一代と有り二代と有り
代々早世と有り代々十六代
死して一子と有り死せざる何れ

● 盛定

代敷より所領何ぞを領りしんや是より
盛定より前の四十餘代
に及ぶとれど

守久入初守

法名松月

純定

法沼守

法名作親

純亮

石馬精

法名宗辰

純玄

五河入初守

初めく五河より所領し
言藤原の時守久とわくし
法名子峰

豊利

清治

長八年伏見よおわく

東照大権現と拝しやうとされしわけ

二年に江戸より勤王

日十七日父の家督と許しにわかれ

同十九年御命より後五位下

叙せらる

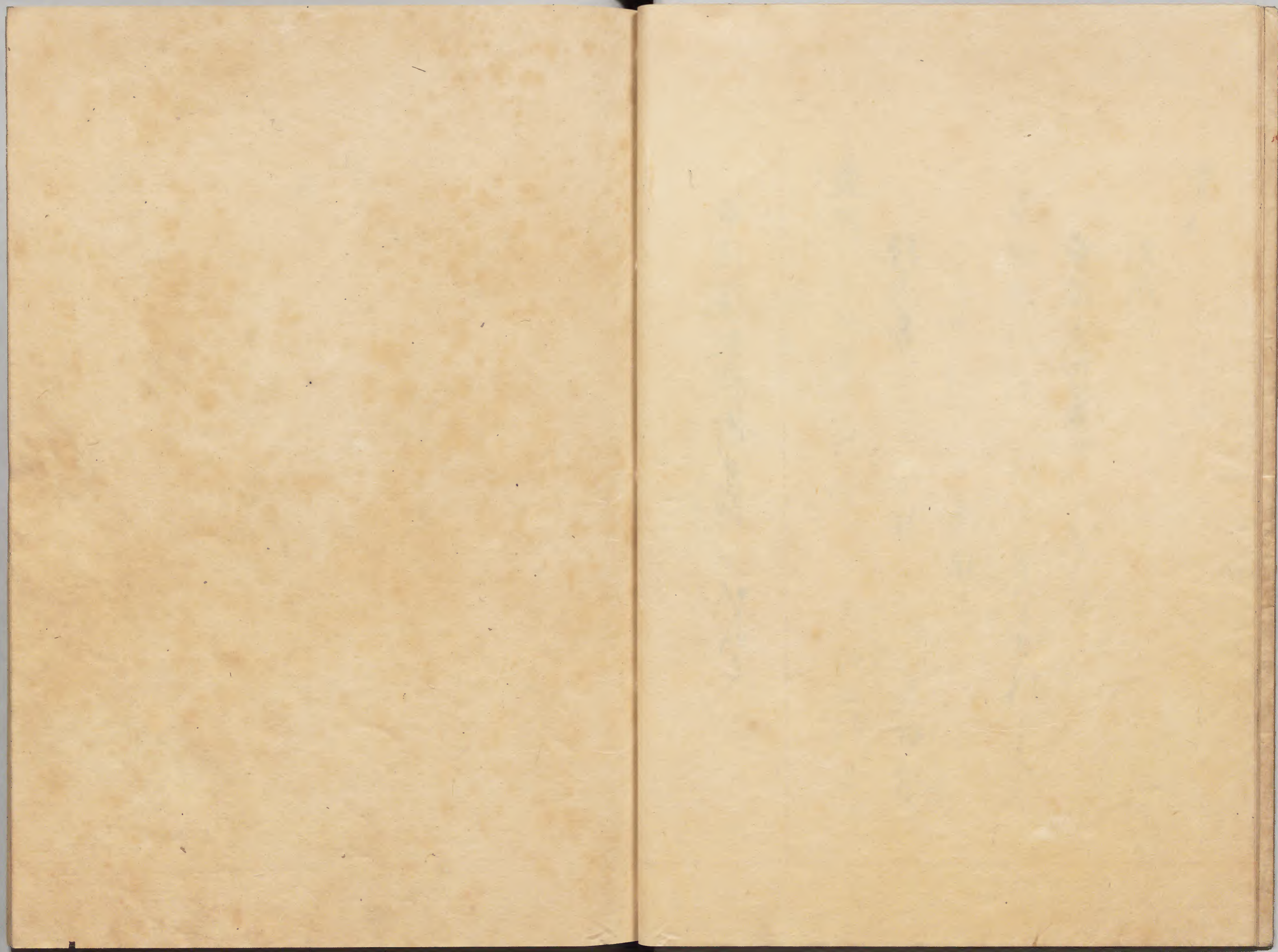
元和三年

名源院敏北御兼印と以戴と

豊次

孫次郎

家紋武田菱



清和天皇七代孫

● 義光

新孫之郎

常陸守

保回

初ハ安回後ニ保回と稱ス

義清

武回冠者

刑部之郎

清光 きよみつ

逸見冠者 はつみかんがし

義定 よしのり

安田二郎 遠江守 やすだにじろう とうえしゅ

源頼朝 郷士所之 忠厚少 げんらいちゆう けいしよの ちゆうこうす

喜永 三月七日 源九郎 義經 よしのり さんがつなぬか げんくわん ぎけい

所一 播州一谷 忠厚 就切 しよいち へいしゆいち ちゆうこう けつせつ

忠義 ちゆうぎ

二郎 遠江守

忠光 ちゆうみつ

二郎 長束尉

忠則 ちゆうのり

二郎 長束尉

忠宗 ちゅうしゅう

保田太郎 たけのたろう 法名女道 ほむなむち

紀州吉田郡保田の庄と領地とありて
又女道と保田とありて

宗重 しゅうじゅう

権頭 ごんづ 紀州吉田郡湯淺の城に任じ
文永中禁裏火事の時宗重士

卒と引おくるに禁中へ召つけり
火とあせりて忠切より友信す
いと此人十六葉の菊御紋と
建武元年正月二十九日歳を死す
法名宗傳 しゅうでん

重定 しゅうてい

五郎左衛尉 法名宗尊 しゅうそん

紀州久原土居の城に任じ

重高 しげたか

又右郎 法名宗玄 任不田か

宗定 むねさだ

五郎長清尉 法名庭柏
河州富山より一軍切あらしより河
州のより俱永庄参回四ヶ村をか治

一知の家

宗弘 むねひろ

太郎長宗尉 任不田か
明應元年二月八日死す時八十七歳
法名法道

長宗 ながむね

山城守 紀州七山城に任じ

天文二十二年八月二十一日
病死 法名宗隆

知宗

伏今 紀州在田郡八幡山の城に
そはら 伏久る 玄蕃元 養子とす
然るに 伯と
天正中 紀州志保 嶽合 戦あり
討死

宗為

法名 無名 道号 快燈
高野 華王院の 伯とす
實の 知宗 伯 同か
又 和人の 秀長 伯とす 保田の 名と
和川の 内 竹田 宇孫 比 又 久保 第地
松山 二階堂 伯とす 伯とす

則家一始小

同年 上使として母波の篠山一

月十九日十月下 右命より

御使者とあり

同日十二月四日 京都よりおわく廿六歳

死をばな 宮庭利白

宗書

喜無未討

母ハ揚井和泉守友原家一が女家一也

秀吉より所人として我切あり

元和二年三月十日 神く

大持現と存一あり 右命より一と剛

宗ノ考と終と領地と

同三

名酒院殿御上洛の時伏奉と

同五年月九年

名酒院殿御上洛の時伏奉

寛永三〇年十一月

將軍家御上洛のとき侍を

日十七日 御命よりして 御寮花御

他事の奉行とす

家紋 追例流

号回 とふ

号回の末流号回の冠者親義の後
胤 うり

● 利長 りちやう

隼人 七回信州 後よ伊予小佐と

利法 りへい

佐左衛門 七回堺州

重法しげは

淡路守あわづのり

正武たけ

寛永十五年

台酒院殿と御湯いん一い等ら之後

將軍殿へ侍人しやくにんとて申付

寛永十年 御命ごのみことよりして水書みづがきの紙

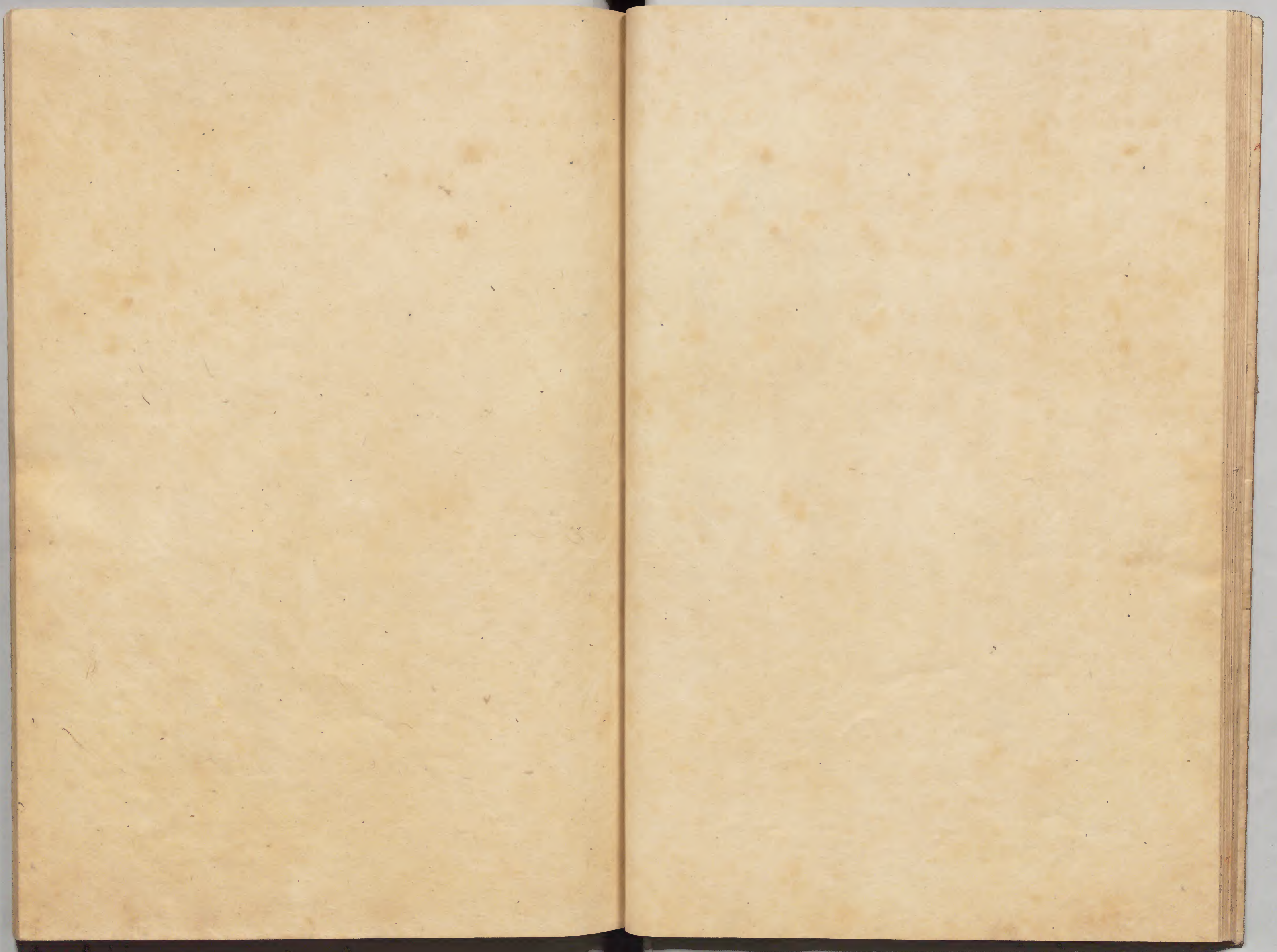
と申上

同十一月 従五位下よびごの叙ぎ一い所ところに御領

利重りしげ

太郎左衛門

家紋竹丸の内しほあきは鳩とむ月つき



● 利根

墨回

太郎左衛門 牛國伊賀

織田信長より命じて河内楠の城より侵す

信長の戦場より列して志をく軍切あり

信長明智がく死す裁でまゝ後織田

信雄よりつて利根よりびよ子利次勢

川新徳の御后

東照大権現乞しきうりて并侍部

少傅正政 命とほく之と利治と

御前石出の御后と後

名徳院殿の御后と

元和三年五月二日に病死

七十六歳 法名 延下

利次

隼人

信隆の三子にして智則の徳の御后

その後有る大納言利家とびに恥おち

利常の子

寛永六年五月十九日に病死

歳六十六 法名了法

利永

太師大権

孝長十九年十景あり

名瀬院殿と稱しある

元和元年中興しつくりなる

月六日六百五十二の地と給り

同九年御少姓但の番とつとむ

寛永九年

將軍家よりつくりし御中興院番と勅め

進物の小番とたり

同十年御加増の末地と存領と

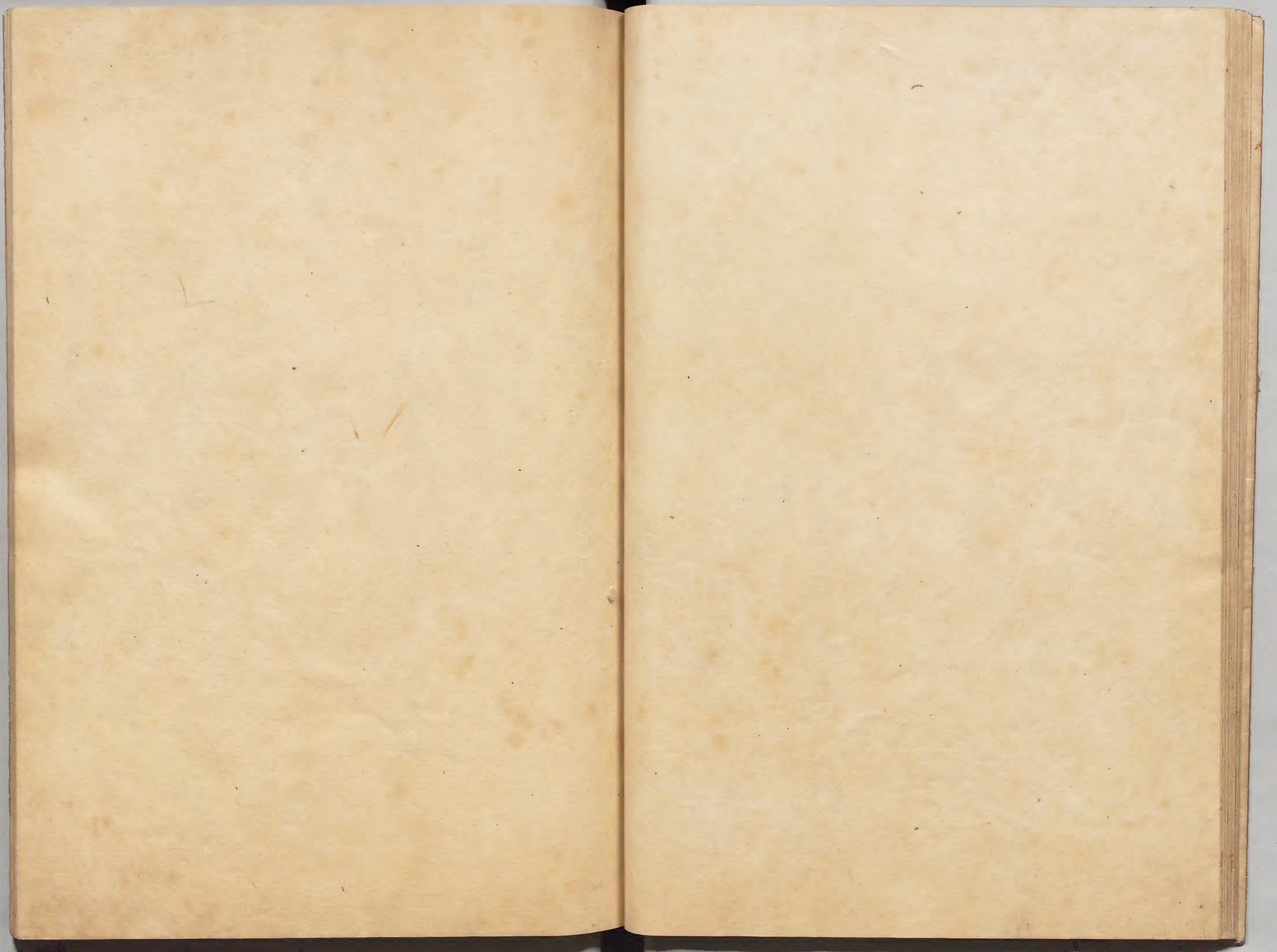
利昌

内記

利直

之概

家紋三日月鳩



● 定次

勇根

うれ先甲州武田の一族なり

孫去書 生甲後

初武田信虎の房より其ら浪人として

駿河より今川義元より

六十二歳より病死 是名宗玄

長次

孫左衛門 七回後河

東照大権現を別後寺より御府より甲

別と書と別と人々まふと書と長次いそるま

心とと通と書とゆへ後河入水の

時石と書と

大権現開東海入國のとき伴至の代友

とけけ給りりりりり後河山あゝの代友と

家次

源左衛門 七回月あ

台徳院殿より後へなりて代官職の補せり

大坂の陣のとき侍

四十七歳とて病死 是名津飲

若次

源左衛門 七小作

名 徳院殿より

年長十九年の冬大坂御陣より供奉

元和元年御神く食禄をたまふ

同年大坂御陣のとき供奉

同三年同五月御入洛より

同九年御上洛のとき京都より

御役より越前少将より

ありは松平誠後より

江戸より

同十年十月本多上野介正純御勤

御勤より御由利下配流の御

上使より御由利下向一正純と

御由利下向一正純と御由利

六郷寺仁賀保寺三人御勤の

御勤より御由利下向一と

御勤

寛永三年御上洛の御勤

同七年 作しりく同東の徳と巡めぐ檢けんと

同日同東の御勘定ごくわんじやう奉行ぶぎやうと成なる食た旅りめが加か増ぞうとね銀ぎん一いとねらら考かうく英令えいれい差干さかんとたまふ

同年上方かみかた大倉おほくら

將軍家の位ゐは依より五歳ごさい内うちをいよいよ別わかと

巡檢めぐけんと

同年東地あづまぢと移うつり

同十一年松平中務大輔忠知まつだいらなかつむねともち卒すま去されり

上使かみつかしとして伊豫いよ守しゆと封ほうさる使務つかむと改かへは

同十二年松平隠岐守まつだいらかくぎしゆ并な依よ守しゆ伊豫いよ守しゆ

おわく知ちりとね銀ぎんの時とき衣え次じ等ら被ひ地ぢは

よくそ銀地ぎんぢとらうらけけくく銀ぎんなぬる

同十二年 上使かみつかしとして増別まへわかよりいいさ

一柳いちりゆう燈油とうあぶらが造つくりぬの地ぢと改かへはす

同年御勘定ごくわんじやうの勘かん定じやう奉行ぶぎやうと改かへは

同十二年 評定ひやうじやう衆しゆの内うちよりりとらくくとられて

民間の所縁とありきく
 同十八年米地の出加増と給りて部令
 三子と領と五上系ま 上意とり
 うり多年御事と勤め職役とこ
 うざりれり御感よりあり
 日十九年御事 仰とありて御金の
 租税よりひり取穀出入用持等此
 と裁判と

長
 橋

源務 七回武務

寛永七年

將軍家と御賜 せうしんく 小姓ぐみの

御番とつと心

長
 正

五郎武務 七回月あ

寛永十六年

將軍家と相一^しり^いとく^ふ川小姓此^し但書^た

しり家

長久

八左衛門 七回日許

家^{その}没^え丸の内^のた^ひ三^ち巴^ば

集 たが

忠次たけノ實まこと父ちちなり

● 長次 ながつぐ

孫まご玄くろ海うみ

代友しろともの事ことと勤つとじ

音根 ね

先祖せんぞのりり源みなもと長次ながつぐと月つき

家次

源兵衛

代友のつとむ

忠次

半左衛門

牛小相判

實ハ家次が兄の子なり忠次知少共々

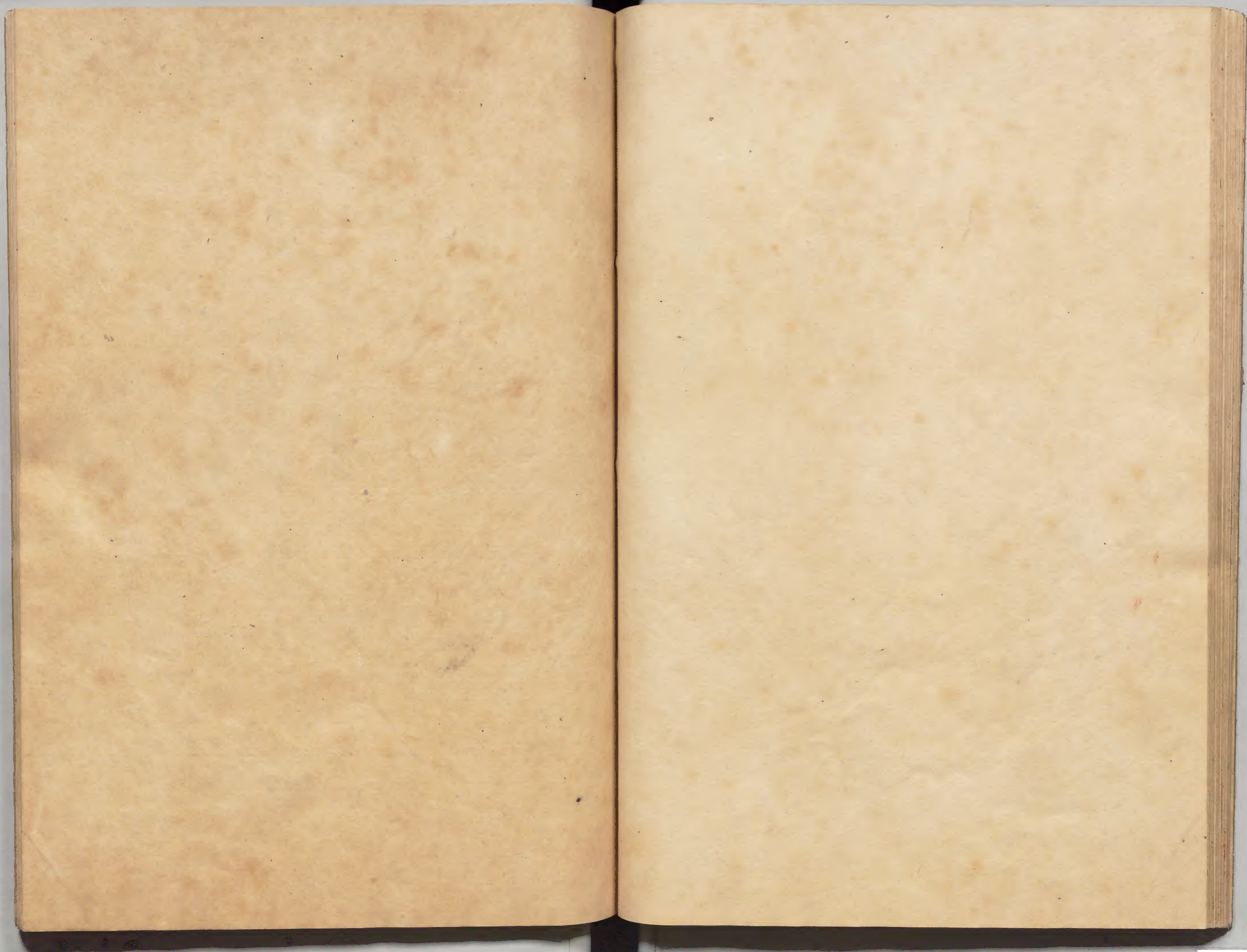
父病死ゆへ家次よりなつて子也

つらけり 上同は通してえ和み

石出さき

將軍家よりしる

家次丸の内より三巴



平願

● 忠次

武生藩

生國三例

東照大権現

一石知事^{いさご}存^{ぞん}福^{ふく}と^と子^こ孫^{そん}

均^{ひら}

命^{いのち}り^りより^{より}忠^{ちゅう}告^{こく}自^{みづか}り^り子^こ孫^{そん} 卒^{すつ}六^む感^{かん}其^{その}死^し

忠務

三五島

生國三例

号七

大権現（石）と云われ御多母（？）と云り

（？）のらびひあるまじり小十人（？）と云

（？）

名誼院殿（？）と云り（？）腰内（？）と云

（？）と云り（？）と云り（？）と云り

定次

小左馬

（？）

（？）飯田（？）と云り（？）と云り（？）と云り

（？）

寛永五

（？）と云り（？）と云り（？）と云り

平頭家紋

飯田家紋丸の内（？）



信義

小佐子

武回左郎
射礼楯之
孫河守
お後と

忠頼

一榮次郎
曾此先經

坂東の車利
侍場の水

兼信

板垣三郎

有義

遠見四郎

長衛尉

信光

石和五郎

伴孫守

射礼楯五七お後

朝信

太高

墨坂の能

信忠

越三郎

信政

石和五郎

信時

五郎次郎

伴守

特綱

六郎

伊豫守

信宗

六郎 甲斐安藝両国の守護
少輔の人よりせせりかきれり

信武

孫六

信具守

甲斐安藝両国の

守護

七月十九日 卒寸法名雷山 恒云清浄具
院と号す

信成

次郎

利子補

甲斐守護

信春

三郎

信具守

十月晦、年と法名花常春云護國院
と号す

信満

次郎 安藝守

二月、甲州木賊山栖雲寺におく

自害と 法名明為光云長松寺と

号す

信重

三郎 刑部卿

権五と相續と

十一月、武官死と 法名切嶽成公

成就院と号す

信守

孫三郎 刑部卿 甲斐の守護

村礼権五とお續す

享徳四年五月十日卒と 法名勇山
健云能淨寺と号と

信介

利初少輔

永信

大膳

小佐子の元祖

信州河内郡子おかく村に成就院

と号と

信行

宮内少輔

二十七歳に病死

信廣

新六郎

永祿十二年四月五日、後河内藤原山

おかく村に年廿五町、後頼感状と

号と

信房のぶ

新八郎

東照大権現くわんげん用東御入承のときしんじゆ出

三子みこ孫まごも

寛永五年正月廿二日病死六十で蔵

信家のぶ

右源右

右徳院殿と孫一子ありて後

右軍家へ流し人あり

信次

右助

元和三年五月十日流し人あり

寛永六年八月納命よりして小十

人紐の紐頭なひづまとあり

信忠のぶただ

右源右

乃軍家へはくちなる

このふり
家没割義

武田義信十代

● 信重

下男孫

武田某流

三郎 利三捕 甲川下男孫小佐

是よりしるしと号と

賢信

中務五捕

集

安藝守

集

上村守

字雲新と号と

集

源六郎

中務大輔

集

初大輔

東照大権現と好湯と

天正十八年小田原の陣の時平兵衛針次
親吉と殿とて侍り忌付におおと討死

信正

云右衛門

法名玄孫

信由のぶよし

實ハ刑ア人捕とらグとら刑せア人捕とら子こアとらま
信正のぶまさ 御命ごのみことヨとらてとらそとら家いへととらけとらぐ

三十一郎

右近院殿

將軍家ヨとらけとら人ひとアとらま

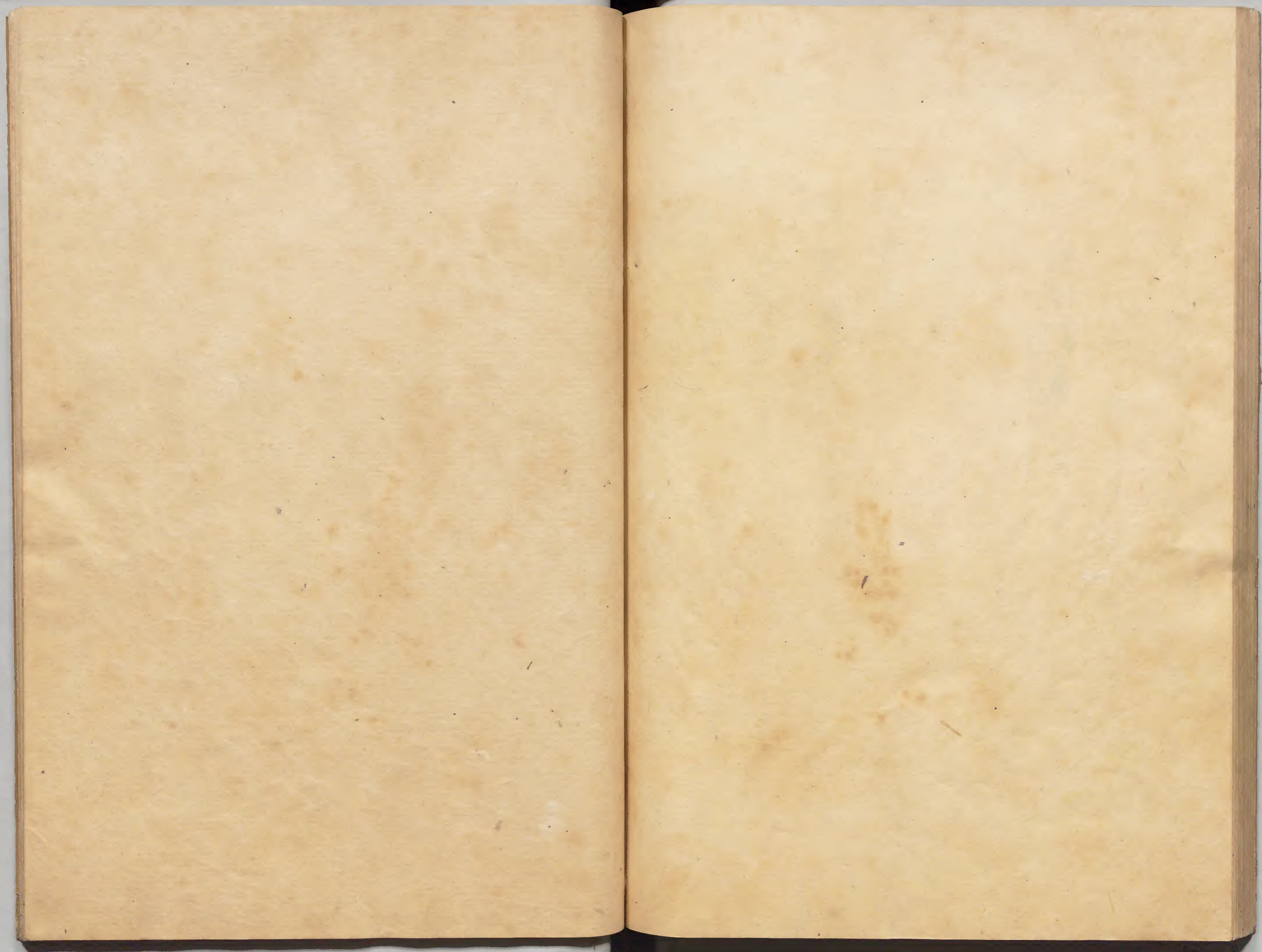
信定のぶさだ

小十郎

寛永十六年

將軍家トとらけとら人ひとアとらま

家紋割菱 楊寶



武田信義六代
● 信宗

安友

初りの巨海

六 甲斐守 文蔵守

西回守護

信武

源六 隆興寺 清浄菩提院と号す

信成

次郎 利兵衛 甲斐の守護

武績

十郎 梁原と号す

信通

公羽守 法名道源

三河巨海は居るとこの少人の巨海と号す
家紋三つ櫛

信明

巨海公羽守

信重

民部卿

某 長

長四子内取孫次女つ他へと御書
と勅し 病死に十二歳 法名淨徹

長壽

長五子伏見しよおおく討死し十九歳

忠次

安政市良久長壽 正圓武ふ明

母ハ安政氏久グじ久と免りちる久よ久母方久氏名久字
と久も久川久と安政久と久稱号久と

長十久五久子久

名徳院殿久よ久ほ久く久よ久す久も久川久や久小久姓久紐久の
御書久と久勅久し久と久後

將軍家久よ久ほ久く久よ久す久も久川久か

忠利

太郎久長壽 正圓久武久明

寛永十五年

將軍家と縁ゆかりなり御書院ごしょいん書がらと勅つとし

家紋かもん友ともの丸まる

行長 ゆきなが

東條 とうじょう

武回へいゑいの苗裔みょうゑい八郎はちらうが末流まゝりゅう女房にようばうの
人なり

紀伊守きいしゅ 氏部うじべ卿きやうは下した 十回守じゅうかいしゅ

細川ほそがわ氏うぢ彦ひこ子こ也や也やのあゝういういのとき
細川ほそがわ強つよ列りやくしりしり之の好このの系けいと末まゝ流りゅう又また所ところの
と何なに行ゆき長ながと是こゝをまたまささぶぶいい河か内ないの系けい平へい房ぼう

の滅^{ほろ}は位^{たい}后^ごと秀^{ひで}吉^{よし}天下^{てんか}の執^{しやく}柄^{へい}のとき
秀^{ひで}吉^{よし}よつふ^つと^と後^ご

東^{あづま}照^{あき}大^{おほ}掾^{ごん}と^と禰^ね一^{いつ}等^{とう} 物^{もの}命^{いのち}よ^よら

行^{ゆき}長^{なが}判^{はん}發^{はつ}一^{いつ}氏^し 御^ごは^は系^{けい}子^し位^{たい}也^{なり}

六^む十^{じゅう}五^ご年^{ねん}一^{いつ}く^く病^{びやう}死^し 法^{ほふ}名^な大^{おほ}翁^{うん}宗^{そう}光^{こう}

長頼^{ながより}

紀^き伊^い守^{しゅ} 從^{じゆ}五^ご位^い下^げ 七^{しち}回^{かい}河^か内^{ない}

幼^こ少^{せう}の^の時^{とき}一^{いつ}り

大^{おほ}掾^{ごん}と^と禰^ね一^{いつ}等^{とう}

大^{おほ}坂^{さか}沙^さ陣^{じん}の^のとき^{とき} 為^な母^ぼ後^ごと^と傳^{でん}一^{いつ}く

移^{うつ}骨^{こつ}と^とほ^ほく^くと^とよ^よら^ら母^ぼ後^ごち^ち家^か長^{なが}潮^{しほ}田^{でん}

ら^ら左^さ衛^ゑ 若^わ幼^こは^は若^わ是^しと^と見^みゆ^ゆび^びあ^あ人の^{ひと}

禮^{らい}授^{じゆ}一^{いつ}の^の状^{じやう}一^{いつ}と^と一^{いつ}通^{つう}一^{いつ}り^り

五^ご十^{じゅう}八^{はち}年^{ねん}一^{いつ}く^く病^{びやう}死^し 法^{ほふ}名^な宗^{そう}泉^{せん}

長氏^{ながうぢ}

十^{じゅう}七^{しち}年^{ねん} 七^{しち}回^{かい}山^{さん}城^{じやう}

六果よりて初り

大於現と好し其のち後

名徳院殿へ所入す其のち

寛永二年

將軍家と母湯こいば一有る

安長やすなが

徳吉清 七回しちかい城川しろがわ聚落

大於現へ九果の時正に其のち後

名徳院殿

將軍家より所入す其のち

寛永十四年六月十日病死感四十六

法名ゴロウ玄實ソウ宗ソウ彬ヒ

政長まさなが

侍立しやくぢ尉じ 七回しちかい武川ぶがわに在る

寛永二年初め

名徳院殿と母湯こいば一有る

同十年

將軍家と^して^は御書院^を書と^して勅じ

之後^に 納^め命^をま^しわ^り小姓^となり

家^を没^す割^り菱

